

鶴川高に「地域留学生」

来年度 都市部の2年生2人

【むかわ】道立の鶴川高(三村素道校長、137人)は来年度から、道外の都市部の高校生を受け入れる「地域留学」を始める。来年度は2年生2人を募集予定で、留学期間は1年間。町や経済団体などと連携し、留学生向けに地域の魅力を学ぶ授業や町内企業でのインターンシップを充実させ、在校生と一緒に取り組んでもらう。留学生とは留学終了後も息長く交流し、将来も、むかわと関わり続ける「関係人口」の創出につなげる。(小宮実秋)

「関係人口」増狙う

地域留学は、地方創生を推進する内閣府の「高校魅力化支援事業」の一つ。公募を経て今年4月、鶴川高など道内3校を含む全国12校が選ばれた。鶴川高では都市部の生徒が2年進級時



6月29日の協議会の設立総会で事業概要を説明する三村素道校長

に留学し、3年時に戻る。留学生は年内に新築される野球場寮で生活する。留学中の単位は在籍校でも認められる。5年間は国から、留学生の募集にかかる経費などの補助を受けられる。同校では地域留学の開始に合わせ、町穂別地区で発見された草食恐竜「カムイサウルス・シヤポニクス」(通称・むかわ竜)や地元の農漁業を学ぶ授業「むかわ学」を充実させ、インターンシップも強化する。これらの内容は、同校と町、鶴川農協、町商工会、北見

工大や桐生短大(群馬県)などと6月29日に設立した協議会で検討。カムイサウルスを研究する北大総合博物館の小林快次教授も、顧問として参加する。

協議会はほかに、野球部寮内にオンラインを活用し、地元の小中高校生の学びを支える学習センターの開設を目指す。

同校は7月から9月までに3回、オンラインで他校と合同の学校説明会を行う。10月上旬に応募を開始し、作文や志望書などで選考して、同月中に留学生を決める予定。定員に満たない場合、2次募集を行う。町は留学生の下宿代などの支援を検討する。

同校は、留学期間の終了後も生徒と何らかの交流を続け、将来にわたって地域に関わり続ける人材を育てたい考え。留学生の受け入れや授業の充実を通じ、地元の在校生にとってもプラスになるとみており、三村校長は「地域留学を通して、学校の魅力が高まり、本校の生徒の成長と町の活性化につながる」と期待している。